

間（5～8時と16～18時に電照）、16時間（4～8時と16～20時に電照）及び24時間（16時～8時に電照）となるように定植日から3月30日まで電照を行い、さらにそれぞれについて1月28日から3月30日まで8時間日長となる短日処理を追加した区を設け、合計8区の処理を行った。

短日処理法は、光を通さないシルバーフィルムを16時

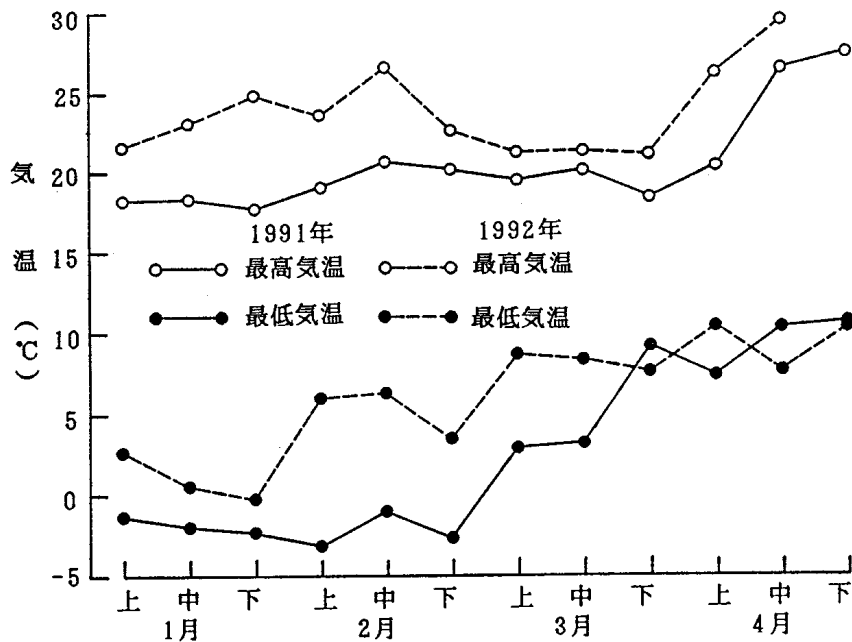
30分より翌朝8時30分までトンネル状に被覆することにより8時間日長を得、自然日長及び電照区は透明ビニルフィルムを同時刻にトンネル被覆することによって処理間に気温差が生じないようにした。

調査個体数は各区12株で、3～4週間おきに生育調査と収穫調査を行った。

第1表 温度の違いがほう芽に及ぼす影響（1989～1990年）

試験区	測定項目	調 査 月						
		11月	12月	1月	2月	3月	4月	5月
5℃	ほう芽株率 (%)	100	100	83	83	75	75	75
	葉 数 (枚)	3.5	—	2.2	2.0	2.3	3.2	5.4
10℃	ほう芽株率 (%)	100	100	83	75	33	33	42
	葉 数 (枚)	3.2	—	3.2	3.0	3.8	4.5	4.6
15℃	ほう芽株率 (%)	100	100	75	67	67	75	83
	葉 数 (枚)	3.7	—	3.7	3.3	3.9	4.0	3.8
対照	ほう芽株率 (%)	100	86	0	0	92	100	100
	葉 数 (枚)	3.0	—	0	0	2.3	3.6	4.6

注. 1.ほう芽とは、葉の出現後葉柄が観察された状態を示す。 2.葉数は1株平均の着葉数を示す。



第1図 旬別の生育気温 (1991年と1992年)

注. 自然日長区を測定。